

1年 道徳

主題名	仲よくすると
中心内容項目	B-10 主として人との関わりに関すること（友情、信頼） ころはっぱ
	令和元年 9月13日 1次公開
	児童 1年 1組 19名
	授業者 永井 悠介

1 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値（教師の価値観）

第1学年及び第2学年の内容の「B-10 友情、信頼」は、「友達と仲よくし、助け合うこと」とある。

友達と仲よくするとは、いつも相手に合わせて気を遣いながら一緒に活動することではない。つまり、「〇〇したから友達」ではなく、「友達だから〇〇できる」と考えるのが妥当であろう。そういった友達関係を築くためには、相手を「理解すること」「信頼すること」について理解する必要がある。

一般的に、低学年段階においては、幼児期の自己中心性から十分に脱していないと言われることがある。しかし、子供たち一人一人の心の中には、「友達と仲よくしたい」というすばらしい心があり、そのことに気付かせていくことで、「友達と仲よくしようとする行動」「友達との助け合い」が生まれると考える。

人間は不完全な存在であるからこそ、お互いの持ち味を出し合って、支え合い助け合うことによって様々なことができることに気付かせていく必要がある。

(2) 児童の実態（児童観）

児童の友達関係はというと、「同じ保育園出身」「家が近い」「親同士が仲よし」など、外的条件によって成立していることが多い。また、自己中心性の発達段階であるから、相手の立場や気持ちを理解して行動することが多いとは言えない。

1学期より、日替わりでの「いいところ発表会」、「誕生日パーティー」休み時間の「鬼ごっこ」などを行い、友達関係を広げたり、友達のよさに気付いたりできる活動を行ってきた。

2学期からは、他己紹介や係活動を行い、更に友達と力を合わせるよさについて学習しているところである。

「ころはっぱ」のようなお話を読み、困っている友達の思いを受け止め、「声をかける」ことや「一緒にあそぶこと」に対して、「いいな」「すてきな」と心を動かすことがきっかけとなり、自分の中にもそのような心があることが自覚できれば、ねらいに迫ることは可能であろう。

【事前アンケート】

・内容	・結果
友達と仲よくなりたいと思いますか。	思う……18人 思わない……0人 無回答……1人
友達と仲よくなるために大切なことはどんなことですか。	一緒に遊ぶ……11人 一緒に話す、手伝う、優しくする……2人 約束する……1人
4月のクラスと今のクラスを比べると、どちらが仲よくなっていると思いますか。	4月……0人 今……19人 (理由) 慣れたから……3人 遊んでいるから……3人 お隣さんと話しているから、何日も経っているから……1人

(3) 教材への思い（教材観）

本教材は、みんなの心の色によって葉の色を変える不思議な木の上にいるたぬき君、きつね君、うさぎちゃんの3人が、「友達がほしいな」と言いながら一人でのいしのしし君を見つける。その時、「友達になって。」と声をかけることで、仲良くなり、ころはっぱの色も変わるという話である。友達の気持ちを考えながら、進んで関わることのよさについて考えることのできる教材である。

声をかける前の4人と声をかけた後の4人の関係性の違いを比較する。その上で、ころはっぱを、笑顔で追いかけている4人に共感させ、「このような友達ならできること」を考えることを通して、友達のよさについて気付きが得られるようにしたい。

2 総合単元ユニットとの関係

学校生活に慣れた2学期からは、当番活動や係活動が本格的にスタートする。また、学芸会や老人ホームとの交流会など学級の枠を超えて友達と関わる機会が増える。様々な活動を通して友達との関わりが増えるこの時期に、「友達と仲よくなるためには」と、これまでの経験をもとにかんがえることで、「友達と仲よくすることの大切さ」をより実感し、よりよい友達関係を築いていけるものとする。

3 研究との関わり

学び合う雰囲気づくりの工夫

教師と子供の温かい人間関係、子供同士の認め合いや励まし合いのできる関係によって、お互いが心を開き、自由に話し合うことができるようにする。

問題意識をもつようにする導入の工夫

子供が自分の問題として捉え、その追求や解決について必然性をもって行うようにする。

自我関与させる展開の工夫

子供が読み物教材の登場人物に託して自らの考えや気持ちを素直に語る中で、道徳的諸価値の理解を図る。

生活とつなげる振り返りの工夫

学習内容や学習活動を俯瞰して納得解をまとめることで、自分の生活や行動、今後の発展へとつなぐことに着眼する機会とする。

4 本時の学習

(1) 本時のねらい

・友達のよさを感じることで、友達と進んで関わり、仲よくしていこうとする態度を育てる。

(2) 本時の展開

	活動内容・予想される児童の反応（○発問 ◎中心発問）	教師の支援・評価・研修との関わり ●支援 □評価指標 ◎研修との関わり
価値への方向付け	<p>1 ねらいとする道徳的価値に対する興味・関心を高め、「課題」を設定する ○4月と9月を比べると、1年1組は、どちらが仲よくなっていますか。</p> <p>・9月です。友達といろいろな思い出をつかったからです ・勉強や行事など、一緒に活動しているからです</p> <p>○3月になると、もっと仲よくなりますか。</p> <p>・なります。これからも一緒にいろいろなことをするからです ・わかりません。でも、もっと仲よくなりたいと思います ・仲よくなる方法は、長い時間一緒にいることや遊ぶことのほかにあります</p> <p>○教材「ころはっぱ」を通して、仲よくなるために大切なことを考えましょう。</p> <p>《本時の課題》 なかよく なるために たいせつなことは。</p>	<p>●学び合う雰囲気づくりを行う。</p> <p>◎子供たちが生活経験と結びつけて考えたこと、ねらいとする道徳的価値についての意識の「ずれ」を感じさせ、問題意識を高める。</p> <p>●「お話に出てくる動物たちは、仲よく過ごしているかな」と教材をよむ視点を与える。</p> <p>●子供たちが教材の内容を理解できるように、読み進める前に場面絵を提示する。</p> <p>●4人の置かれている状況や言動、言動を生む心が分かりやすいように板書を図式化し、子供たちの思考を助けるように構成する。その際、子供たちが板書に参加するように促す。</p>
	<p>2 教材「ころはっぱ」を通して、「課題」を追求する ○このお話を読んで、どう思いましたか。</p> <p>・4人が仲良くなってよかったです ・いのししくんが、うれしそうです ・みんなが、笑顔になっていて楽しそうです</p> <p>○最初の4人と後の4人では、どちらが仲よしだと感じますか。</p> <p>・後の4人です。仲よく遊んでいるからです ・最初は、暗い表情をしているからです ・最初と最後では、ころはっぱの色が違ってきます</p> <p>◎みんながえがおになったのは、どうしてですか。</p> <p>・4人が仲よしになったからだと思います ・はじめは、こわそうだったけど、一緒に遊ぶと楽しいからです ・いのししくんの気持ちを考え、助けていたからです ・一人の仲間外れもいないからです ・葉っぱがカラフルなのは、みんなの色が合わさっているからだと思います</p>	<p>●導入時の子供たちの考えと、教材世界のずれを自覚させる。</p> <p>◎「声をかける」「一緒に遊ぶ」といった行為を生む心まで目を向けさせて、みんなが笑顔になった理由について共感的に考えさせる。</p>
	<p>《共通解》 なかまはずれにしない、いっしょにあそぶ、たすけあうで、えがおになる。</p> <p>3 価値について納得解をまとめる ○こんな仲よしの関係をつくることができたら、どんないいことがあるでしょうか。お話からどんなことを学びましたか。</p> <p>・安心して、遊ぶことができると思います ・けんかをして仲直りができるのだと思います ・毎日、学校へ行くのが楽しみになると思います</p> <p>○本時の学習を振り返り、感想をワークシートにまとめる。 ・今日の勉強でわかったこと ・これからやりたいこと</p> <p>○教師の説話 ・学級に対する思いを語る</p>	<p>◎相手の思いや違いを受け入れることのできる集団のよさについて考えさせる。</p> <p>◎本時の学習で学んだ「友達と仲よくするために大切なこと」について、自分のこれまでとのつながりや、これからの生き方にどのように生かすことができるかを考えさせる。</p> <p>□自分に友達と仲よく過ごしたいと願う心があることがわかり、友達と進んで関わり、仲よくしていこうとする意欲をもつことができたか。 【発言・ワークシート】</p>

(3) 本時の評価

・友達のよさを感じ、友達と進んで関わり、仲よくしていこうとする態度を育てることができたか。